

がんの痛みと痛み止めについて No. 3

鎮痛補助薬について

はじめに

がんの痛みについて、薬剤部だより No. 33・34で説明しましたが、がん患者様の約70%の方が、なんらかの痛みを経験されています。

がんによる痛みをとる薬には、アセトアミノフェン、非ステロイド性消炎鎮痛薬（ロキソニン・ボルタレンなど）、麻薬性鎮痛薬（モルヒネ・オキシコンチン・デュロテップパッチなど）、そして、今回紹介する**鎮痛補助薬**などの種類があります。

鎮痛補助薬とは、薬の主な作用として鎮痛作用はありませんが、鎮痛薬と併用することで鎮痛効果を高める薬のことです。

痛みを取り除くために、それぞれの患者様の痛みの強さや痛みの種類に合わせて、下の図のように痛み止めを組み合わせ使用します。



§ 痛み止めの種類と組合せ §

第1段階

弱い痛みを使用する痛み止め

第2段階

中程度から高度の痛みを使用する痛み止め

	麻薬性鎮痛薬 モルヒネ・オキシコンチン・デュロテップパッチ
非ステロイド性消炎鎮痛薬 アセトアミノフェン	必要に応じて非ステロイド性消炎鎮痛薬、 アセトアミノフェン
必要に応じて鎮痛補助薬	必要に応じて鎮痛補助薬

鎮痛補助薬の使用について

- ★ 鎮痛補助薬は、麻薬性鎮痛薬の使用量を増量しても十分に効果が得られない「骨転移痛」¹⁾や「神経障害性疼痛」²⁾などに麻薬性鎮痛薬や非ステロイド性鎮痛薬と併用して使用します。
- ★ 量が増えると副作用が起きやすくなるため、1種類の薬を少量から開始し、効果と副作用を確認しながら、薬の種類や量を検討していきます。

- ▶ 1) 骨転移痛：脊椎、骨盤、大腿骨、頭蓋骨に多く、最初はズキズキした鈍痛で、運動時に痛みが増します。
- ▶ 2) 神経障害性疼痛：神経の障害が原因とされる疼痛です。腫瘍の浸潤、化学療法の副作用、帯状疱疹後神経痛などが原因としてあげられます。